

巡り巡って捲る恋^{めく}

登場人物

- ・女1
- ・女2 (女1の同期)
- ・女2の友達 (セリフなし)
- ・女3 (女1の同期)
- ・女4 (女1の先輩)
- ・部員1
- ・部員2
- ・男1 (女1の先輩。女1の思い人)

【ログライン】

- ・盥回しにされうまくことが運ばない女が、しかし偶然にも最後は狙い通りになる話。
- ・恋する女が、好きな人にアタックするために奔走する話。

【脚本上の狙い】

- ・女1がコメディチックにバタバタする分、オチの綺麗な静けさが引き立つ。

【コメント予想】

- 「こんな素敵な近づき方してみたい」
- 「タイトルそういう意味か」

【パンチライン】

- 「人に借りた本、勝手に他人に貸すなよ」

○D 大学内の食堂あるいはベンチ

女1が女2を見つけて走ってくる。女2は女3と一緒にご飯をたべている。

女1 ○○！

女1が二人の元に合流。

女1 こないだ貸した小説あるじゃん？ あのーほら、映画化するって言ってたやつ。ごめん、あれすぐ返して欲しくて！ 読みたいって言うてる人がいて！

女2 あゝそれなら部室に置いてる。

女1 部室ね、おっけ！（行こうとする）

女2 （引き止めつつ）てかあんた、□□さん（男の名前）の件どうなったのよ？ 進展した？ こないだ遊びに行ったらって聞いたよ？

女1 あゝそれね！ だから必要なの！

走り去っていく女1。「うん？」と小首を傾げる女2。

○同 部室（なんでもいい）

女1がダッシュで入ってくる。部員が二人いて、ランチ中。女1はそれに目もくれず、小説を探し始める。しかし見つからない。

部員1 なに？ どうしたの？

女1 ○○に貸した小説どこ知らない？

部員2 あゝ。確か△△が持ってたよ。

女1 △△！

「△△！」と言いながら走り去って行く。呆気に取られる部員たち。

○同 学校内のどこか

女3が座って本を読んでいる。優雅なティータイム。そこにすごい形相で勢いよく走り込んでくる女1。

女1 △△！

背後から急に大声で呼ばれ、そばにいきなり現れた女1に驚いて紅茶を吹き出してしまふ女3。

女1 あたしの小説！（ガバツと表紙を見る。だが違う）……じゃない！

女3 あ、それなら◇◇先輩が読みたいって言ってたから渡したよ（と指をさす）。

その方向にバツと顔を向ける女1。ダダダと走っていく。

○同 学校内のどこか(さつきとは別の場所)

女4(◇◇)の元に女1がいく。

女1 かくかくしかじか!

女4 あゝそれなら友達が読みたがってたから貸しちゃった。

女1 え〜! もう……誰に貸しちゃったんですか!?

そこに男1(□□)がちょうど本を返しにやってくる。

男1 あ、これ女1の本だったの?

女2の「てかあんた、□□さん(男の名前)の件どうなったのよ〜?」のシーンをフラッシュ。

女1 あ、□□先輩……。

男1 貸してくれてありがとうね。面白かったよ。

女1 あ、いえ、良かったです(走り回って乱れた髪や服を整えながら)。

男1 あれ? これこないだCEOキャッチャーで取ったやつじゃん。

と、男1は女1のリュックについているキーホルダーを示す。

女1 あ、□□先輩がせっかく取ってくれたので、その……。

男1 え、それでわざわざ付けてくれるの? いいのに。だって欲しいって言ってたやつ取れなくて、偶然取れてやつじゃんこれ。

女1 いえ。とっても気に入ってます!

男1 ありがとう……。

少し朗らかな雰囲気流れる。女4はそれに【いい感じの】リアクション。

男1 あ、てかさこのシーン、オレめっちゃ好きだったんだけど! すげーキュンとしな
い!? (と、一緒に一冊の本を見る)

女1 あ……はい! ここですよね? 私も……ちょー好きです!

嬉しそうな女1。二人が片手ずつで持つ小説をアップにする。

本のタイトルは「巡り巡って捲る恋」。

先輩と女1が、二人で楽しそうにページを捲っていく。